

稲垣忠・黒上晴夫・堀田龍也・山内祐平（2002） 学校間交流学習を促進する教師コミュニティの形成過程. 教育メディア研究 Vol.8 No.2 p1-15



### 要旨

#### ・学校間交流学習の隆盛

- ・地域間の格差
- ・世代間の格差

「総合的な学習の時間」向け NHK 教育番組

「たったひとつの地球」= 環境教育・探求学習・学校間交流学習

教師間の連携が非常に重要（教師コミュニティの必要性）

この場合のコミュニティとは

「ML を媒介とした参加校の教師、番組関係者の相互作用の集積」

ML のログ・事例を用いて、以下の 2 点を明らかにする

1. 教師コミュニティの形成過程
2. 教師コミュニティが交流学習に果たした役割

### 内容

#### ・「たったひとつの地球」

0 . 生放送

1 . クラブ日記 = 番組にあわせたテーマについて子どもが報告

2 . 地球だいじょうぶ? = 環境教育の共同学習を実践する学校（15 校）の  
クローズな電子掲示板

外部にはクラブ新聞として報告

・・・地球だいじょうぶ? には、ML・F2F で交流する教師コミュニティがある

### ML の分析

#### ・量的把握

#### ・質的把握（全メッセージを内容ごとに分類し、発言カテゴリの量を比較）

1. 形成期

・場の形成

2. 実践期

3. 総括期

・教師間の間接交流による、直接交流経験の共有、相互の情報交換  
すすみ具合の報告

### 事例

- ・ ML ではノウハウの共有、直接交流グループの形成支援、相手校探し
- ・ 放送番組は、それまでの活動を振り返るケイキとなっていた

Jun's Comment

- ・ ネットワークで教師を支援するとは何か？

### 1 . 素材提供型



- ・ レッスンプランの提供、素材の提供
- ・ 自律的な素材提供と循環をめざす  
熱心な先生がボランティアでやってくれる・・・  
オトクは何か？  
編集はどうするか？

[www.lehrer-online.de](http://www.lehrer-online.de): (teachers-online)

ドイツ政府とドイツテレコム の NPOSchulen ans Netz e.V.

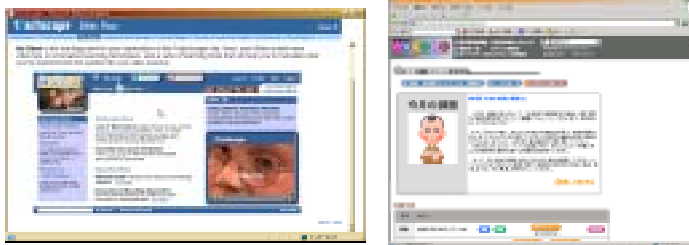
- ・ 最新の教育関係情報
- ・ 教員向け e-learning (著作権等の法的な情報等) を提供
- ・ 各教科に応じた指導案の提供

全国の教師が作成したものを事務局の専任スタッフ

(教師、学識経験者など) が選考し、優秀なものをサイトより提供している。

なお、選考された指導案を提供した教師には謝金が支払われる。

### 2 . 講座 / 研修型



- ・ 模範授業のストリーミングと共通課題の討議  
( [www.teachscape.com](http://www.teachscape.com) )
- ・ レッスンプランの添削  
放送教育 A to Z (<http://www.nhk.or.jp/sch/atoz/index.html>)

### 3. 教師コミュニティ型

- ・教師のプロジェクト遂行コミュニティ

TAPPED IN (<http://www.tappedin.org/>)

教師コミュニティの成果を、どのように外向きに公開し  
他の教師をエンゲージさせるか？

他の学校間協同学習のプロセスをカイマ見ることが、いかに自分たち  
の実践のノウハウになったのか？

他の事例的知識×どれだけうまくいったか？の自己評価  
うーむ、なんか方法はないものか・・・

・・・いずれにしても、評価が問われている。

・今回稲垣さんが使った、メッセージの質的なカテゴリー分類による方法は、この領域の  
評価方法としてはスタンダード。

メッセージを複数の研究者で読解 カテゴリー作成 カテゴリーに分類 統計検定

たとえば、科学教育の CSCL だったら「反論」「根拠」などのカテゴリーにメッセージ  
を分類するなどのことがおこなわれている。

ただし、教師コミュニティを分析することによって、どのような知見をだそう  
としているのかが見えなくなった。

ML が教師コミュニティの形成手段である

テクノロジーの有効性の検証ではない

一般的な教師コミュニティの特徴を抽出しているわけでもない

ひとつのプロジェクトにかかわる顔見知りの教師たちが ML  
に参加すれば、論文に列挙されるような情報交換は起こりえる

・ネットワークを利用した学習を組織する際に、多層的に学習者の集まり(学習者共同体)  
を組織している点が非常に参考になる。いわば、学習コミュニティの設計論。

その際には、どの学習者共同体からどの学習者共同体へ、どのような情報が流れ、それ  
が相互にとって、どのような活動の資源となるのかを考察するべきである。一人の学習者  
は何もひとつの学習者共同体の所属メンバーではない。また、学習者共同体はひとつの均  
質的なコンテキストから構成されるものでもない。多層的な複数の学習者共同体が連携し  
て、ひとつのまとまりをなすように設計されているところがオモシロイ。

- ・生放送 = 視聴者(マス)
- ・クラブ日記 = マスの報告
- ・「地球だいじょうぶ」 = クローズなコミュニティ